

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	17 -	事業名	交通安全事業	担当部課	くらし文化部安心安全課
------	------	-----	--------	------	-------------

基本情報	総合計画	基本方針	3	人がいきいきとつながるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	3	交通安全意識を高める気持ちを育む	款	2	総務費
		施策の進め方	2	交通安全啓発の充実	項	1	総務管理費
	まちづくり 行程表	フラッグ	F2	「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	目	11	交通安全対策費
		政策分類	6	地域の安心安全をみんなでつくる	大事業	2	交通安全事業
	その他(関係法令、要綱等)		長久手市交通安全条例				
事業開始の背景、経緯等		交通事故のない社会の実現を目指した取組を推進し、市民が安全に安心して暮らすことができる社会の実現に寄与することを目的とする。					

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 交通安全街頭活動及びキャンペーンの実施、並びに高齢者及び自転車利用者等を対象とした交通安全教室の開催等を行う。					
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民					
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 交通安全意識を高め、交通事故のないまちを目指す。					
	事業を構成する事務事業	① 交通安全対策事業	現状維持	④			
	② 交通安全啓発事業	現状維持	⑤				
	③		⑥				

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	事業費(A)	千円	決算	予算			19,677	18,408
決算						18,554	17,108	
人件費(B)	千円	決算			-	3,819		
総コスト(A)+(B)	千円	決算				18,554	20,927	

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	A 人身事故	件	目標	392	408	341	328	291
			実績	414	362	345	306	
	B		目標					
			実績					
	C		目標					
実績								
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 実際に市内で発生した人身事故の件数(5%の減少を目指す)								
B								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成27年6月1日の道路交通法の改正により、交通の危険を生じさせるおそれのある一定の違反行為(危険行為)を反復して行った自転車の運転者に対し、自転車運転者講習制度が始まった。
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 人身事故件数が、目標に対して減少した。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 高齢者の被害が全体の6割を占めているため、引き続き高齢者の交通安全意識の向上が必要である。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) より多くの市民に周知できるような啓発方法を模索していく。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 平成30年までに、人身事故件数を300件未満にする。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		交通安全事業									
番号	①	事務事業名	交通安全対策事業	款	2	項	1	目	11	大事業	2	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成16年度	終了（予定）年度	—								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	<ul style="list-style-type: none"> 小学生を対象 交通指導員が学童に対し、交通安全教育、登下校の通行指導や交通安全のための各種啓発活動などを行う。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	交通安全意識の向上を図る。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			16,284	15,282	15,278
		決算			15,521	14,117	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
交通指導員人数	人	目標	10	12	12	12	12
		実績	10	12	12	11	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

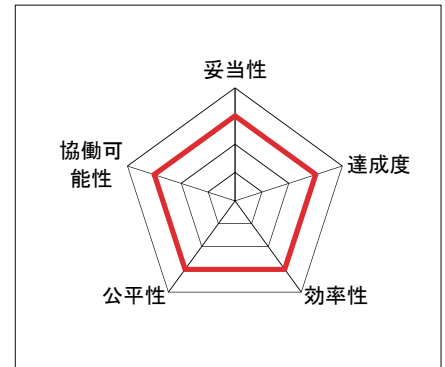
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
交通指導員は、実践的な交通指導を目的として各小学校区に配置しているところだが、最近では、児童の安全確保全般について期待をされていると感じる。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
交通指導員は、実践的な交通指導を目的としており、その目的のための適正な人員配置は行っていると考えている。 そのため、今後も継続して事業を行う。
(何をどのような状態に改善したのか)
平成28年度に、一身上の都合で急遽退職した交通指導員の後任者を、確保するよう努めた。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
・外部団体の行う研修に積極的に参加し、交通指導員としての知識や技術の向上に努めた。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
・交通指導員となる人材の確保。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
・交通指導員が1名欠員しているため、人材の確保に努める。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		交通安全事業										
番号	②	事務事業名	交通安全啓発事業		款	2	項	1	目	11	大	2	中	2
事務事業の期間		事務事業開始年度		平成16年度		終了（予定）年度		—						

1. 事務事業の目的

対象 ・ 手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	・ 市民対象 ・ 交通安全に関する講習会やキャンペーンを実施する。 交通事故被害者の約6割を高齢者が占めており、高齢者に対する啓発がより必要となってきた。
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	交通安全意識の向上を図る。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			3,393	3,126	3,180
		決算			3,033	2,991	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
交通安全講習会開催回数	回	目標	—	21	21	25	25
		実績	—	28	33	32	
		目標					
		実績					

4. 事務事業を取り巻く環境変化

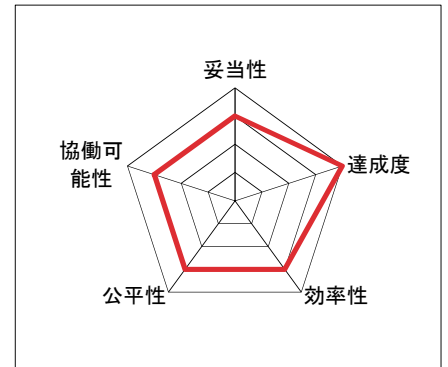
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
交通事故被害者の約6割が高齢者である一方で、高齢者が加害者となる交通事故も社会的に取り上げられることが多くなった。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
高齢者に対する啓発について、新たな機会や啓発の方法などについて検討が必要である。
(何をどのような状態に改善したのか)
長寿課と連携し、高齢者の方々が多く集まる機会をとらえ、交通安全に関する啓発を行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
小中学生を対象とした「交通安全啓発グッズデザインコンクール」を実施し、オリジナルグッズを作成した。また、そのグッズを活用し、啓発活動を行った。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
市の行事や市民活動に参加をされない方への啓発については、検討が必要だと考えている。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
交通事故の傾向分析資料等を参考にしながら、その時に合わせた内容での啓発活動を行う。